

1 題材名 唱歌(しょうが)でアンサンブル

2 題材について

(1)「唱歌」の魅力

締太鼓の「天テレツク」や箏の「ツツテン」などのように、旋律やリズム、音色などを口で唱えるものを唱歌(しょうが)という。これは、楽譜と口伝えの間の中間的な役目を持つもので、唱歌を覚えれば、楽譜に頼らず、身体丸ごとで音楽を理解する学びの道筋ができる。たとえ楽器を演奏できなくても、各楽器の唱歌を合わせるだけで、奏法の特徴を知り、アンサンブルの楽しさを味わうことができる。

この学年の子どもたちは、2年で「江戸囃子」(締太鼓、大太鼓、篠笛、チャンチキ)、3年で「八丈太鼓 どんどら・本囃子」(大太鼓)、「さくらさくら」(箏)の演奏に取り組んできた。和楽器の習得で大切だと考えるのは、「なぞり、かたどる」営みである。所作振る舞いも含め、丸ごとを「まねる」ことを繰り返しながら、自分の身体に音楽を染み込ませていくのである。

今回は、初めて「小鼓」の唱歌を扱う。あまりなじみのない楽器の特徴を、唱歌を通して感じると共に、大鼓の唱歌と合わせ、仲間とともにアンサンブルする楽しさを味わって欲しいと願っている。

(2)子どもの実態

素直で明るい子どもたちで、掃除の時間にも自然と歌声がでてくる。3年の最初、大太鼓を始めると夢中になり、ある子は朝一番に登校し、毎日八丈太鼓に取り組んだ。また12月に「仲間と好きな楽器で演奏しよう」と提案すると、歌や踊り、太鼓やトーンチャイム、ベルなど、自分たちで選び、工夫して発表する姿がみられた。発表の形態は異なっても、演奏者に自らを重ね、共感的に受けとめたり、問いを持ったりする経験が大切である。楽器と対話し、他者と対話し、自らと応答しながら、新たな世界を広げてほしい。教師もまた、ある時は子どもと同じところで、彼らの楽しみ方を自らの身体で実感し、その世界の持つ意味を問い直していきたい。

3 学習指導計画(全18時間/本時12時間目)

3学期の学習は次のように予定している。

1~7 時間目	8~13 時間目	14~18 時間目
お互いの声をよく聴いて歌おう リクエスト「星空のメッセージ」「僕にできること」ほか 5つの音を使ってリコーダーの曲を吹こう 「ぶんぶんぶん」 自分のお気に入りを聴きあおう		
唱歌(しょうが)を思いだそう それぞれの唱歌から楽器の特徴を感じ取ろう 「江戸囃子」 箏の唱歌 小鼓の唱歌 「八丈太鼓」 「さくらさくら」 本物に学ぶ 好きな楽器の唱歌をアンサンブルしよう		
楽器との対話 仲間との対話 自分との対話 → 新たな世界へ		

4 本時の学習について

(1)本時のねらい

- ・唱歌を通して楽器の特徴を捉え、仲間とともにアンサンブルする楽しさを味わう。

(2)予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・既習曲を歌い、演奏する。 歌「星空のメッセージ」 リコーダー「冬の夜」 ・これまでの唱歌の特徴を互いに語り合う ・長唄囃子の唱歌を合わせて歌う。 「石段の合方」 ・実際の稽古場面のDVDを観て、感想をまとめる 	<p>のびのびと、 息を合わせて 自分の体験を言葉にする 唱歌の特徴を意識して 息を感じあう 楽器と真摯に向き合う姿勢</p>